

特定希少野生動植物オオミネイワヘゴ保護管理事業計画の概要

■ 保護管理事業計画とは

- ・ 奈良県希少野生動植物の保護に関する条例 第30条に基づく計画
- ・ 特定希少野生動植物の保護時管理事業を適正かつ効果的に実施するために策定

■ 策定の経過

平成27年5月1日 計画策定調査業務委託契約（委託先：(株)環境総合テクノス）
平成28年2月10日 奈良県自然環境保全審議会自然保護部会にて計画案の審議
4月19日 保護管理事業計画を策定公表

■ オオミネイワヘゴとは

山地の斜面に生育する常緑のシダ植物。

分類：オシダ科オシダ属。

学名：*Dryopteris lunanensis* (Christ) C.Chr.

学名の *Dryopteris* はギリシャ語の「dry（樫）+pteris（羊歯）」。樫の木に着生することから名づけられた。学名の *lunanensis* は「(中国の) 路南（ルーナン）の」という意味。和名のオオミネイワヘゴ（大峰岩紗羅）は、最初に発見された大峰山系に由来し、同属のイワヘゴに似ることによる。

■ 分布

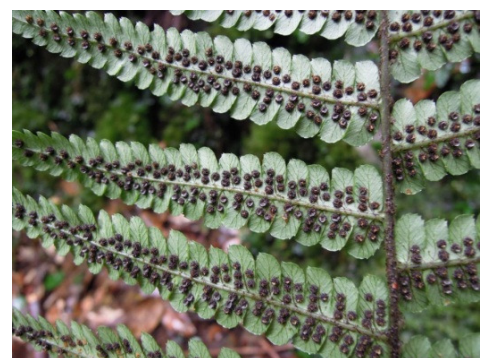
- ・ 国内では奈良県と三重県に分布（三重県は、ヒヤリングによると2010年時点1株となる）。
- ・ 奈良県では、かつて3箇所分布したが、現在は既知生育地のみとなる。

■ 生活史

- 4月・・・新葉を出し、成長。
- 5月・・・孢子形成の開始。
- 6～7月・・・孢子は完熟。



オオミネイワヘゴの成熟個体



上：コケ上に生育。下：葉裏の孢子囊群。

■ 保護管理事業計画

I. オオミネイワヘゴの生育地の現状と課題

- ・ 県内生育地は1箇所。生育個体数は合計96個体。国内に残る唯一の個体群。
- ・ 最も生育が良好な個体群は、滝周辺の空中湿度の高い渓谷環境に生育し、周辺への孢子供給源地となっている。道路沿いの個体群も、今後、分布拡大の可能性はある。

既知生育地の現状維持が、最重要課題。

- <起こりうる危険リスク>
- ・ 開発や自然災害などによる周辺樹林の損傷、土地の改変。
 - ・ 生育地情報の公開による盗掘・・・過去（1976年頃）にマニアによる乱獲により個体数が激減。現在、生育地は非公開。
 - ・ 今後ニホンジカの増加により食害の可能性はある。現状は、地形が急峻で、鹿や人が立ち入りにくい立地のため、ニホンジカなど動物による明瞭な食害はみられない。

II. オオミネイワヘゴの生育環境

- ・ 樹林内であつた空中湿度が高い湿潤環境が最適な生育環境と考えられる。生育基盤は選ばないが、樹林伐開などで乾燥化が進むと、シダの生育は危ぶまれる。

III. オオミネイワヘゴの保護計画の基本方針

- 生育地の巡視による保全
- 分布の把握
- 生育域外保全の実施および移植・増殖技術の確立
- 増殖個体の移植
- 協働・啓発活動

IV. 事業の目標

1. 当面の目標

- 既知生育地の保全とモニタリング
 - ・ 個体群の維持状況（個体数の増減等）のモニタリングと、環境変化（樹林の崩壊、ニホンジカの食害等）の有無の監視。

2. 中・長期目標

- 移植・増殖技術の確立および生育域外保全の推進による絶滅リスクの軽減
 - ・ 専門機関による系統保存と移植・増殖技術の確立。
 - ・ 移植・増殖技術をもとに、増殖個体の生育地への移植。

V. 事業の区域 奈良県内の本種が生育する地域

VI. 事業の内容

1. 生育地の巡視による保全・・・希少野生動植物保護巡視員などによる生育地の定期的な巡視
関係者への周知・徹底
2. 分布の把握・・・生育環境となる可能性がある地域における分布調査の実施
3. 生育域外保全の実施および移植・増殖技術の確立・・・専門機関による本種の系統保存および移植・増殖技術の確立
4. 増殖個体の移植・・・上記の技術を用いて、既知生育地へ移植し、個体群の拡大の検討
5. 協働・啓発活動・・・生育地情報は非公開。関係行政機関、県民等への普及啓発の推進